

大川小判決、原告ら報告会「命を守る備えにつなげて」

[社会・暮らし](#)

2021年2月21日 18:51



宮城県石巻市立大川小の津波避難訴訟の原告らによる報告会（21日、仙台市）＝共同

東日本大震災で児童74人が犠牲となった宮城県石巻市立大川小の津波避難訴訟で、県と市に損害賠償を命じた仙台高裁判決が2019年に確定したことを受け、原告らが21日、仙台市で報告会を開いた。遺族らは「判決が命を守る備えにつなげてほしい」と訴えた。

報告会はオンラインも含め約200人が参加。長女の未捺さん（当時9）を亡くした只野英昭さんがあいさつに立ち、「子どもたちが自らの命をかけて問題を提起し、勝ち取った判決。意義をもう一度考えて理解を深めてほしい」と呼び掛けた。

判決は学校側が適切な避難場所や経路を定めず、市教育委員会も是正しなかったとして組織的過失を認定した。

基調講演した東京大大学院の米村滋人教授（民法）は、事前防災に対する重い責任に踏み込んだ判決を画期的だと評価。その上で「あくまで最初の一步。この先取り組みを進めるのは社会全体の責任だ」と強調した。〔共同〕

東北ニュース

全国・海外ニュース

スポーツ

震災・防災

特集

コラム・社説

[トップ](#) [ニュース一覧](#) [記事](#)

大川小判決を防災に生かす 児童遺族ら仙台でシンポジウム

2021年02月22日 06:00



大川小津波訴訟の確定判決の意義への理解を深めたシンポジウム = 21日午後

宮城県石巻市大川小津波訴訟の確定判決を今後の防災に生かそうと、児童遺族らの原告団は21日、仙台市青葉区でシンポジウムを開いた。支援者らに勝訴の報告をするとともに、事前防災の不備などを認めた確定判決の意義への理解を深めた。

会場の仙台弁護士会館には約50人が出席。オンラインでは全国から約150人が視聴した。

基調講演をした東大大学院の米村滋人教授（民法）は、確定判決について、防災マニュアルなど事前防災の不備、学校側だけでなく市教委などを含めた組織過失を認定した「画期的な判決」と評価した。

一部で、判決が教師個人に防災の専門知識を求めていると理解されていることを踏まえ「判決は個人に専門知識の習得を求めている。市などの組織内で専門部署と連携する重要性を指摘している」と解説した。

パネル討論会では、遺族で原告団共同代表の只野英昭さん（49）が裁判を振り返り「いまはみんなが横並びとなって、悲劇を繰り返さないために行動したいというのが本音だ」と話した。

原告代理人の吉岡和弘弁護士は報告会終了後、「震災10年を前に、支援者らに勝訴を報告できてほっとした。この判決を社会のために生かしていきたい」と述べた。

判決報告検討会2021年2月21日

※メディアによっては期間限定のものもあります。

NHK

東北放送

日本経済新聞

毎日新聞

河北新報

朝日新聞

大川小判決 学校防災に生かすには

仙台で遺族らシンポ オンラインも

東日本大震災で児童74人が犠牲・行方不明になった石巻市立大川小学校の教訓をどう生かしていくのか――。発災から10年を前に、同校を巡る訴訟の原告らが21日、仙台市内でシンポジウムを開いた。オンラインでも配信され、計約200人が参加した。

冒頭、長男健太さん(当時9)を亡くした佐藤美広さん(59)が「高裁判決の意味を議論していただき、今後の学校

防災につなげていきたい」とあいさつ。民法の専門家で東京大学大学院の米村滋人教授による基調講演に続き、原告となった遺族や訴訟を担当した弁護士らも加わって意見を交わした。

日本大学危機管理学部の鈴木秀洋准教授は、学校防災の取り組みについて「『津波(が対象)の判決』と限定的に捉えている自治体もあり、地域差がある」と指摘。米村

教授は、判決が認めたのは教職員個人の責任ではなく組織的な責任だとし、「(学校防災は)個人ではなく、協力しあって組織として取り組むべき大きな問題だからこそ、このように認定された」と強調した。

4年生だった長女未捺さん(当時9)を失った只野英昭さん(49)は「裁判は終わったので、遺族だけでなく、みんなが横並びになって取り組んでいきたい」と話した。

(窪小谷菜月)

「横並びで取り組みを」

朝日新聞